

環境への取り組み

エコチャレンジ2020(2018年度実績)

エコチャレンジ2020では、2017年度のデータを基準としています。

初年度の2018年度は、地球温暖化防止や大気汚染防止の取り組みで目標を達成しています。

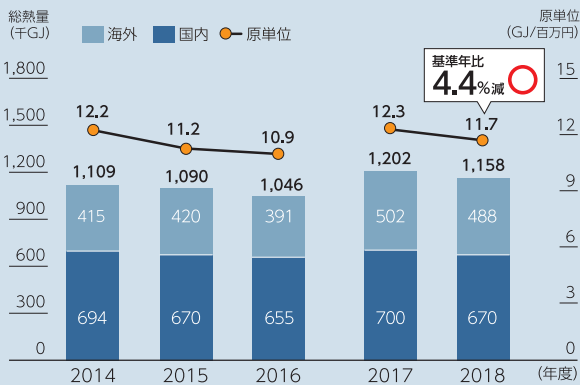
地球温暖化防止

使用エネルギーの削減

省エネ活動の成果を、使用エネルギーの熱量換算値※で確認しています。海外事業所は基準年の2017年以降、8社を算入しています(2016年以前は5社)。

※ 熱量換算値: 単位=GJ[ギガジュール]

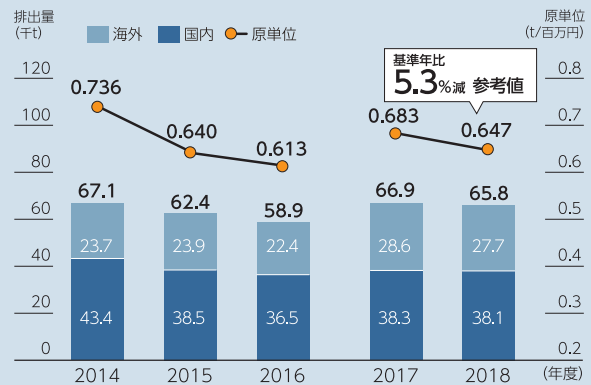
■ 使用エネルギー(熱量換算値)の推移 [海外含む]



[参考データ] CO₂排出量の削減

企業活動が地球温暖化に及ぼす影響をCO₂排出量で確認しています。CO₂排出量、原単位とも2017年比減少しています(海外:2017年以降=8社、2016年以前=5社)。

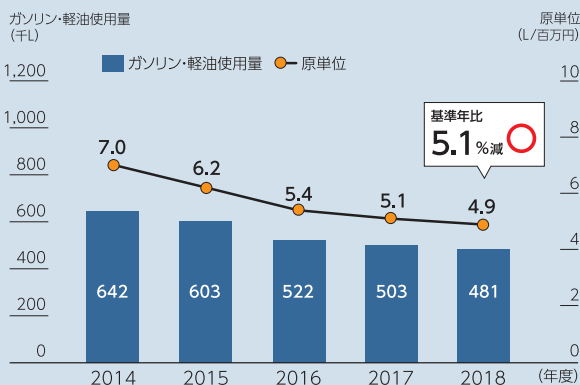
■ CO₂排出量の推移 [海外含む]



社有車の燃料使用量の削減

エコドライブの推進、また、エコカーへの積極的な転換を進めるなど、社有車の燃料使用量の削減に努めています。過去5年間順調に推移しています。

■ 社有車の燃料使用量の推移

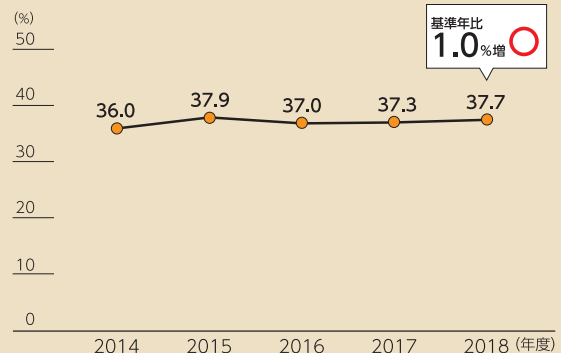


省資源

再生資源利用率の向上

再生資源を原材料に積極的に投入、省資源化を進めています。

■ 再生資源利用率の推移



環境への取り組み

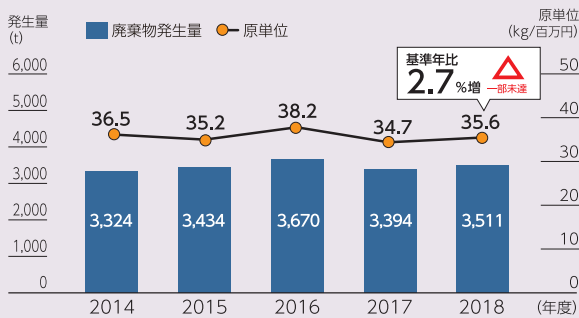
エコチャレンジ2020(2018年度実績)

廃棄物の3R

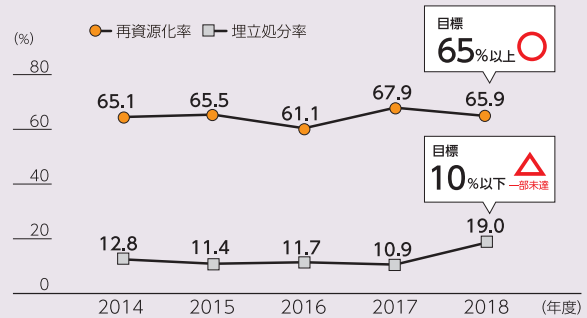
産業廃棄物発生量の削減、再資源化率の向上・埋立処分率の低減

生産に投入される材料のロス削減や不適合品の撲滅、また資源の有効活用など、廃棄物発生抑制に努めています。今年度、廃棄物処理の状況などに変化があり、産廃発生量と埋立処分率に影響しています。

■産業廃棄物発生量の推移



■再資源化率・埋立処分率の推移

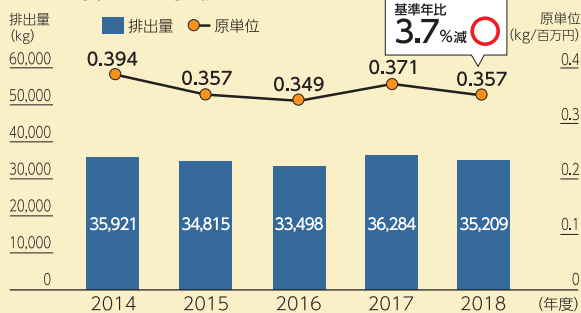


環境汚染防止

大気汚染物質排出量の削減

大気汚染物質には、窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、粉じんなどがありますが、代表としてNOxを記載しています。NOxの排出量は、エコアクション21の2002年版の低減対策が行われていない施設の排出係数で算出しています。

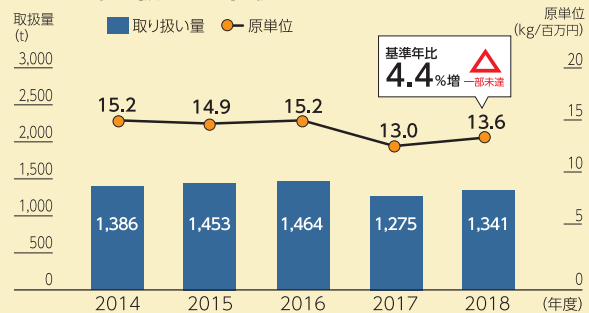
■NOx排出量の推移



PRTR取り扱い量の削減

難燃剤のDBDE(デカブロモジフェニルエーテル)やフッ素系撥水剤のPFOA(ペルフルオロオクタン酸)などが各種規制により将来的に使用制限されるため、より安全な代替物質に置き換えつつあります。

■PRTR取り扱い量の推移

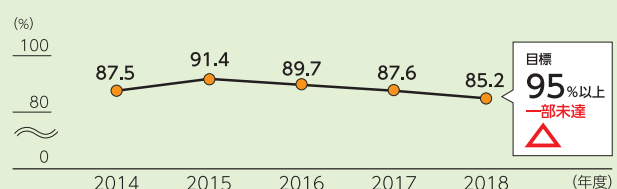


グリーン活動推進

事務用品のグリーン購入率向上

資源採取から廃棄に至る、ライフサイクル全体にわたる環境負荷の低減を考慮した物品などの、積極的な購入に努めています。

■事務用品のグリーン購入率の推移



環境への取り組み

エコチャレンジ2020(2018年度実績)

製品のLCA※評価促進

製品のLCA評価促進(目標6アイテム)

製品のLCA評価体制を整え、2015年度より自社内で評価を行っています。

2018~2019年度の2ヵ年で12アイテムの評価を目標に掲げていますが、2018年度は新規対象製品がなく、評価0アイテムとなりました。

※ LCA:製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法、ライフサイクルアセスメントの略称。

0アイテム
未達
×

環境に配慮した技術・製品の開発促進

環境に配慮した技術の開発促進(目標1件)

PHフィルムのUVインクジェット印刷技術

鉄道車両などに用いられる環境に配慮した床表示フィルムに、高精細で耐光性に優れた印刷を可能にしました。

1件
目標達成
○

環境に配慮した製品の開発促進(目標3件)

① 鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」に新樹脂バネ材「スミキューブエア」を組み合わせた「ハイブリッドクッション材」

② 軽さとコンパクトさを追求し、家庭洗濯が容易な超軽量カーペット「Caruru(カルル)」

③ リサイクル素材を表面に加工し、12種類の物質を消臭する「空気を洗う壁紙® オレフィンプラス」

3件
目標達成
○

海外生産事業所における環境負荷の集約と低減

海外生産事業所のデータ集約

2018年度に新規に環境関連データ集約を開始した海外事業所は0社となりました。

新規集約
0社
×

事業活動における生物多様性の保全活動

2011年度に生物多様性の保全活動について取り組み方針を策定し、2013年度から事業所ごとに特色のある活動を実施しています。

取り組み方針

① 事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減

- ・ 生産事業所内および周辺での生物多様性のモニタリング調査を行う。
- ・ 植樹を行う場合は、外来種ではなく、地域に自生している在来種を使う。
- ・ 事業所周辺の清掃を定期的に行い、草刈りなどで環境を整備する。
- ・ 生物資源を原材料として使用する場合は、その持続可能性を確認する。
- ・ リサイクル原材料を使用した製品開発とリサイクルシステムの構築を積極的に行う。
- ・ 環境マネジメントシステムに生物多様性の保全活動を組み入れる。
- ・ 事業所ごとに取り組める新たな生物多様性の保全活動を推進する。

② サプライチェーン全体での生物多様性への影響低減に向けたお取引先様への活動

- ・ グリーン調達ガイドラインで、お取引先様への生物多様性保全活動の協力を依頼する。

③ 社会貢献活動

- ・ 森林保全活動を行う団体を支援する。
- ・ みどりの募金活動に協力する。

取り組み実績

〈住江織物(株)奈良事業所〉

事業所の南を流れる岡崎川周辺を桜並木の遊歩道に整備する「安堵桜友会」に参加し、桜の手入れなどに協力しています。

〈住江テクノ(株)滋賀工場〉

工場敷地内にて、甲賀市の花であり、人と自然の共生の象徴といわれる「ささゆり」の増殖に取り組んでいます。

〈尾張整染(株)本社工場〉

木曾川などでホテル飼育に取り組む「一宮平成ホテルの会」に賛助会員として参加しています。